資料 03
2022 年 7 月 19 日
地域づくりWG

赤谷の森の木材地域内活用検討のための背景

1. 赤谷の森・基本構想 2020 における地域づくり WG の説明

赤谷プロジェクトの目的の一つである「持続的な地域づくり」を実現するための WG です。赤谷の森と地域の人や産業との関係づくりや、社会学的な調査を行っています。

この WG の活動で、三国街道のマップづくりや、カスタネットや桐箪笥などの木工業者との連携が進んできました。

2. 赤谷の森の木材地域内活用の事例

1) カスタネット

2013 年 3 月に廃業された地域のカスタネット工場（旧・プラス白桜社）の協力により、2013 年度の 10 周年記念事業として赤谷の森の木（ブナ等）でつくったカスタネットを復活させた。カスタネット生産には直径 40cm 以上の材が良いとされ、旧・プラス白桜社では丸太で 1 年乾燥させてから自社で製材加工していた。

2) イヌワシ木材

イヌワシの狩場創出のためのスギ伐採試験地（第二試験地）から搬出された木材（約 28m3）を、地域の製材業者（小林産業(株)）に運搬・製材加工してもらった（2019 年 12 月～2020 年 2 月）。地域の木工建築業者（工舎澄み処）等によって下記に施工された。

土合ビレッジ什器、個人邸、都内企業ボックス、道の駅サイクルラック、川古温泉食堂椅子
さなざわのテラス（カウンター、田んぼごろ寝）※笛木建設施工

3. 2021 年度 地域づくり WG での議論

- 自然にとって良い森林を作っていく過程で人間側も利用するという基本的方向性。
- 中量生産・中量消費を目指し、生活にちょっとした赤谷のアイテムを入れるというマーケティング戦略が良い。
- 赤谷プロジェクトなどユネスコエコパーク核心地域の中で取り組んでいることの中で、緩衝地帯でも実行・応用可能なものを明確にし、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画に基づき、自然性を損なわない形で人間の生活が行われている状態を目指す必要がある。
- 雑木の中には適切な売り先に選別して出せば高付加価値なものがあり、赤谷プロジェクトの中で持続的に利用できる方法論を検討することができそうである。
- イヌワシの狩場創出のために伐採を計画しているアカマツ林には太いクリもあり、積極的に広葉樹林を残すよりは、明確なオープンスペースを作る方が良いと確認され、皆伐を行う事とした。これが立木販売として販売されれば、実行期間に支障のない範囲で自伐型林業関係者にも関わってもらうことで、販売した材の価値の最大化を図れる可能性がある。
- 「赤谷の森の木材」という材のトレーサビリティーが担保できる状態で流通に乗せるには、現実的には立木販売の形で売り、地元関係者がそれを手に入れる流れが想定される。入札参加の資格として 2 年間の営業経験が必要。